

やんちき通信 234号

11月20日現在
 子ども会員：139人
 正会員：37人
 賛助会員：243人
 31団体



忍者まちを走る

～忍術学園虎の巻～



しりたがり.....02	特集～秋のかわらでいもにかい～.....08～09
おとな塾.....03	ティーンズ+.....10
運営の 20 年.....04～05	おめでとう 20 周年/舞台ウラ.....11
特集～忍者まちを走る～.....06～07	いもにかい.....12

やまもと かずこの 知りたがりやトーク

11月も終盤にさしかかり、ちまたは既にクリスマス・モードを醸しておりますが、みなさんいかがお過ごしですか？YYYでは忍者、いも煮会と秋のイベントを満喫。ぼちぼち来年の企画を立て始めようかってところです。

そんな中、行ってきました宮島に！「突然、何言っとな、この人」って思ったそこのあなた、宮島では、今しか体験できないことがあるのですぞ。

それは、2019年6月から大改修工事に入っていた世界遺産・厳島神社の大鳥居、全体を覆っていた工事の足場や防護ネットがおよそ3年半ぶりに撤去されます。美しい姿を拝見できるようになったことは勿論ですが、一般参拝者が普段は見ることの出来ない視点から大鳥居を楽しむことができるよう、大鳥居までの海上の工事用通路が期間限定で開放されていたのです。その期限がなんと11月27日まで。

いも煮会の準備に来ていた第6地区メンバーさんから第6地区まちづくり委員会が夏まつりと敬老会の振り返りの会として11月22日に宮島行きを計画していることを小耳に挟んだ私。速攻で「行きたい！」と我儘を言ってみました。日頃からの付き合いの良さが功を奏し、一緒に連れて行ってもらえることに。

数日前の予報だと傘マークだったのが、迎えた当日は、ラッキーにも時折、陽がさす薄曇り。フェリーで行くのかと思っていたら、高速艇がチャーターされていて、宮島までなんと1時間弱。しゃべっていたらすぐ着いた！（笑）到着してすぐに昼食、もちろん、美味しいあなご飯を頂きました。それから、大鳥居近くのフォトスポットでモデル鹿のメイち



さんと集合写真をパチリ。そのメイちゃん、撮影の間、一瞬たりとも微動だにせず、プロのモデルさんでしたよ。写真撮影が終わり、大鳥居のところに行こうとしていたら、カメラマンのお兄さんが12時までしかその工事用通路は解放されていないことを教えてくれました。その時、11時50分。工事用通路はフォトスポットの対岸、厳島神社の神殿を横切るのが一番の近道。バチ当たりな私たちは300円を支払い、神殿の中、参拝者をよけつつ猛ダッシュ。めっちゃ走りました。だって、本日の主な目的は、これだったんですもん。どうにか間に合い、無事に真下からのアングルで大鳥居を目にも携帯カメラにもおさめることができました。最大のミッションをクリアした後は、大聖院、紅葉谷公園を散策、定番の揚げもみじを美味しく頂き、通りかかった花嫁・花婿を乗せた人力車に目の保養をさせてもらい、無事お土産もゲット。第6地区のみなさん、留守に会議を進めてくれたYYYスタッフのみなさん、ありがとー！お陰様で、いろいろラッキーな楽しい一日を過ごすことができました。

Nextおとな塾

そもそも煩惱ってなに？



講師：守屋佑光さん(一華寺 住職)

【日時】12月14日(水)19:30~

【場所】生涯学習センター508

【参加費】1200円

※事前にお申込みください。

マークに聴こう!

~How to open your doors to life~



講師：ヘツ・マークさん(ALT)

お久しぶりです、なつです。第11回 Harbor Salon はおとな塾とコラボ、呉市の高校で ALT をしているマークをゲストに開催。彼は、茶目っ気たっぷり。英語と日本語を織り交ぜながら、タブレットを上手く使い、英語の話がわかるのかなーと思っていた私たちの不安を一気に吹き飛ばしてくれました。

まず最初にカナダ出身のマークがどうして日本に来ることになったのか？きっかけはなんと小さいころテレビで見た「セーラームーン」だったそう。(カナダでもセーラームーンが放送されてたんだ!) ビルや都会的な様子が、自国とは全く違うことに衝撃を受け、日本で実際に暮らしてみたいと思いついて来たんだとか。カナダには山らしい山がなく平地だらけ。呉で暮らすようになって、坂道だらけの生活で、めっちゃ痩せたそう!

学校の話も盛り上がりました。マークの故郷ノーバスコシャは日本の中国地方と同じくらいの面積。

その中国地方くらいの中にたった1つしか高校がなかったそう。えらく遠いので、バスで帰宅する学生のため授業が早く終わるのだとか(羨ましい)。完全下校時間が16時台で部活もない。また、公立大学では入学試験はなく、一度社会に出てからまた大学で勉強する人がたくさんいることなどを話してくれました。(卒業するのは大変らしいですが…) 日本とは随分制度が違うなど驚きました。

ちなみに、今回のおやつは、マークおすすめ、カナダのメープルシロップを使ったクッキーでした。(上甲奈津)

11月16日(水)生涯学習センター 参加者11名

呉のトシちゃんこと金光邦夫さんにきく!

自分に合った宝石の選び方

誕生石、ヒーリング効果、石言葉…最近宝石は単純な美しさ以外にも様々な意味で注目を集めているようですが、皆さんはアクセサリなど選ぶとき何を意識されているのでしょうか? 金光さんによると、よく鑑定書の有無が気にされるように、宝石についている希少性や価値に目がいく方が多いそう。それを反映するように〇〇カラット、無調色など、誘惑のワードも山のようにあります。

しかし、宝石を身に着ける場面を想像して頂けると分かりやすいのですが、最も重要なのはその石の「ファースト・インプレッション」だそう。つまり、目で見て宝石がどれだけ輝いているか、ということ。高い買い物になるのでついあれこれ考えてしまいがちですが、そんな単純な基準で金光さんは判断されていると聞いて驚きました。実際にお店の商品

も見せて頂きましたが、どれもきらきらと輝いて素敵なものばかり。それを眺めていると確かに、どんな意味があってもなぜ価値があるのか、とはほとんど考えていませんでした。

私はこれまで、宝石は一種のステータス…? と思って敬遠していましたが、単に綺麗なものを身に着けたい、というオシャレの一部だったんだなと捉えられるように。背伸びせずに自分に合う宝石を探しに行くため、まずは貯金を頑張りたいです!!

(芥川愛花里)



講師：金光邦夫さん (宝石商・金銀堂店主)



YYY と 20 年

～運営から見てきたもの～



企画運営を長く支えてきたスタッフが 20 年を振り返るコメント第 2 弾。今年度最大の事業を 1 月に控えた鑑賞部の皆さんです。これまで 82 本の舞台公演を実施。トラブルもたくさんありますが、それこそが醍醐味(笑) 多くの人の満足顔と出会えたことが一番の成果です。

常任理事になって 2 年。事務所に頻繁に出入りするようになって、新たを知る情報の多いこと。「へえ～、そうだったんだ！」を連呼している毎日です。今春、YYY の歌をつくろうワークショップに参加して、『YYY』の名前の由来を初めて知ったときもそうでした。ここは色々な情報が入ってくる面白い所であるとともに、本当に種々雑多な人が立ち寄る所です。勉強、相談、会議。訪れる人のニーズに合わせた居場所になっています。「ただいま」で入ってきて、「おかえり～」と迎えられる。誰でも、受け入れてくれる雰囲気にも癒される方も多かったのでは？

そんな環境で 2 年、鑑賞部に所属。私のできることで新鮮な空気を入れる事だと思っていたのですが、引き出しの数が少ない頭ゆえに、悩む事も多々…テンションを上げることの難しさを知りました。初めての試みに戸惑い、創作意欲のある人に感心する毎日。やはり、新鮮な空気を入れるって、

法人としての活動は、提出書類にも自分の名前が載り、責任を感じるものでした。当初、私は子ども活動部でもに会や雪あそびはもちろん、子どもたちの舞台を観るだけではない体験活動(もぎりやカーテンコール)として「ありんこ隊」の募集をし、すすめていきました。

その後、鑑賞部の一員となり、普段は見ることのできないホールや舞台裏にも足を運びました。野村萬斎さん、神保彰さんたちを間近で見た時は感動、感激でした。呉で一流のエンターテイメントに出会おう！という YYY の思いで鑑賞事業活動は継続しています。

いつも思うのは、ここに関わっていなかったらどうしているのだろうかということ。誘ってくれた H さんに感謝しています。そして、私が今も YYY で活動しているのは、一緒に活動している人たちが信



若い力も必要！って思います。今までの考え方は継承しつつ、若い人達の企画で盛り上がる YYY であつたらいいなあ。他人が企画したものに乗っかるだけでは、面白さ半分。YYY を世に知らしめたこの 20 年を発展させ、もっともっと繋がり、世代交代できる YYY にしていければと思っています。(甲田直美)



頼できるから。いつも子どもたちの側に立ち、好奇心旺盛な人たちに私は圧倒され続けています。ここで出会ったいろいろな人たちと楽しみながらも刺激あい、そして子どもたちの成長を目の当たりにできるのは、20 年携わったご褒美だと思います。

(西川容子)



NPO 法人になってから入会した私は YYY 歴ちょうど 20 年。当時、小学生だった 2 人の娘は、結婚して家庭持ち！！今では孫も生まれ、私・娘・孫の 3 世代で関わってます。

初めは、ぴーかぶーの絵本会などの子育て支援活動、デイキャンプ・雪あそびなどの自然体験活動に参加する側だった私が、今では企画する側に。現在、鑑賞事業に携わり今年は「つなぐ・つながる YYY(^^)！」をテーマに日々奮闘中です！！10 年前の抱負に「熱く語れる人になりたい！」と書いたけれど、まだまだそれには程遠い…。これからの活動の中で、身につくかしら！？

娘も高校生の時に理事となり、高学年キャンプの実行委員長をしたりして、企画運営を体験。実行委員のスケジュールを合わせるのが難しく、思うように進まなかったりして、苦勞していたようですが、ワイワイガヤガヤと言いながらの会議は楽しくもあり、時間を忘れ遅い帰宅時間になったりも…。やってた時は大変そうに見えたけど、当時を振り返って「楽しかった」「やってよかった」と懐かしそうに語っていた娘。

YYY だからこそ出来ること。みんなで成長させてもらってます。
(岡本知子)

鑑賞部長として 20 年。人形劇やマジック～舞台劇・狂言・コンサートなど、ひざをつき合わせて観るものから 1000 人規模のホール作品まで多様なジャンルの舞台公演を企画してきました。

事業は作品選びから始めます。ここが肝なので「なぜ、今、この作品を選ぶのか」を自問しながら時間をかけて検索し、下見に行ったりします。作品が決まれば、出演交渉、会場を押さえ、企画書・予算書を作成します。チラシ・ポスター等を制作し発注。(文字にすれば簡単だけど、どれもできあがるまで試行錯誤の連続…) 配布やポスター掲示などの手配。当日の準備等あれやこれや！たくさんの人の力をかりてすすめていきます。

YYY ならではのと言われるのは、ロビーに入った瞬間から作品の世界を楽しめる会場づくり。『ザ・ニューズペーパー』では歴代の内閣の写真を並べ、『Rue de Valse』ではパリのカフェの雰囲気を感じてもら

えるようにしつらえました。でも一番重要で大変なのはたくさんの人にチケットを買ってもらうこと！予定どおり進まない時は、どうしたらいいの？もう嫌だ！と逃げ出したくなることもあります。しかし迎



えた当日、会場に集った人の「すごく良かった」「感動した」という声と、笑顔で帰っていく姿に、やってよかった！と、充実感でいっぱいになります。

鑑賞部の目標は『ホールいっぱいの人で鑑賞する』です。なかなか達成できませんが、『ザ・ニューズペーパー』の時、開場前の市民会館ホール階段にずらりと並んだお客さんと満席の会場、『野村萬斎が誘う 狂言の世界』の時、文化ホールの一階席が 1 か月で完売、身動きできないくらいの人込みとなったホワイエに、興奮しドキドキしたことは今でも忘れられません。

辞めたいと思ったこともありますが、YYY は私にとってはすっかり居心地のいい場所になっていました。個性的なメンバーとそこに集まってくるたくさんの人で構成されている、魅力的なところなので。
(福田聖子)



隠して隠して探し出せ!!



午前のおとなワーク、午後から子ども忍者の見る修行、聞く修行、変身修行を経て、今年も忍術学園が幕を開けた。

低学年はまず、チームごとに決められた色の巻物を探す修行(オープニングの間に本部スタッフが隠したなんと 300 本!)黙々と探し、10分もたたないうちに風呂敷に入りきらないほどに。太鼓の音でなすびのまわりに集まる。次なる修行は、その巻物を隠し、他のチームと探し合うというもの。「金銀に輝く虎の巻」というスペシャルな巻物も手渡され、ピカピカ目立つそれをどうやって隠そうかとみんな真剣!中庭、校庭、教室とそれぞれの陣地に巻物を隠して隠して隠しまくった。

今回、大人忍者の中から3人のリーダーが。なすびの声で、子どもと共に巻物を探す。困ったときには、彼らを囲んでアイデアを出し合った。なかなか見つからなかった「スペシャル巻物」に苦戦したものの、諦めず探し続けついには発見!なんと、去年の修行アイテムも見つかった!1年の時を超えて出てきた色紙に興奮した(笑)

当日急に決めたリーダー。午前のワークで体感した「響関する」「子どもと遊び合う」を大事にしながら遊んだ。10年を超える事業の継続が、そんな大人を引き寄せているのかもしれないと北さんに言ってもらえて嬉しかった。(谷)

恒例！ちゃんばら合戦 子どもの大勝利！！



高学年は、こつぽふれあい広場を飛び出した。近くの自治会館でソーダシュワシュワから指令を聞く。まずは2チームに分かれ、道中に隠されている巻き物を集める。みんな目を皿のようになって探した。電柱の出っ張りや窓の燦…見つけた子どもたちの歓声と笑顔に、大人の心も和む。賑やかな声に近所の人も出て来た。「何をしよるん？」と声をかけられ、忍者修行のアピールをした！！

次なるは、それぞれが到着した公園と神社で巻き物を隠す。どこに隠すか思案している最中に、「なすび」からさらなる指令が！「スペシャル巻き物2本を隠し、ヒントを3つ相手チームに渡せ」。簡単に探し出されたくない、めっちゃ考える子どもたち。大人忍者も知恵を出す。

時間が迫るなか、あわただしく移動して、相手チームの隠した巻き物を探す！スペシャル1つは見つけたものの、ヒントにてこずり、どちらのチームも見つけれない。諦めつかない中タイムリミット。残りの1個はいずこ…。悔しい顔も楽しそうだった。

冷めた感じかと思った高学年、相手を出し抜こうとダミーを作ったり、木に登って高い所に隠したりと、したり顔でどっぷりハマっていた。少しくらい見つけやすくした方がと意見を出す大人も真剣だ。みんなの生き生きとした表情に、疲れも吹っ飛ぶ。忍者修行、何回経験しても楽しい。(しるこ)



見つからないスペシャル巻き物！

いよいよ合戦の校庭へ。しかし高学年が帰ってこない。ひとまず低学年だけで一戦することになったものの、保護者が加わり膨らんだ大人チームに圧倒される。どうする！？なすびを中心に作戦を考え、5人が風呂敷を囲んで守ることに。1回戦は、必死の攻防の末、子どもが勝利。

そこへようやく高学年が帰還、「わああ、帰ってきたー！」と歓声が上がった。鬼に金棒、大盛り上がり。そこからの2・3回戦も見事子どもが勝利をおさめた。大人も必死に食らいつき、あと一步というところまで旗を持って走ったが、惜しくも今年は勝ち星なしだった。また来年！(笑) (まゆまゆ)





秋のかわらでいもにかい



焼き芋準備「芋くるみ」



神様が応援してくれてる！数日前まで降水確率 80%で「サツマイモ 130 本も予約しとるのに～」とってたのに快晴よ。

例年、当日は大忙し。「久保ちゃん、次は何したらええん？」「これは、どうするん？」「〇〇はどこにある？」トイレにも行けん。それが、今年は全然声がかからなかった。屋敷ちゃんや上田さんがめっちゃ頑張っていたのだ。さらにリーダーとそのお父さんお母さん、準備に関わったみんなも。二河峡へ向かう道の謎解きも、芋を包む説明も、全体レクも調理もかまどもそれぞれが精一杯考え、取り組んでいた。その結果、子どもたちの「やりたい」にいっぱい出会えたのだと思う。アンケートに「仲良くなれた」「班の人がやさしかった」という言葉がたくさんあったことにもニンマリ。実施できて良かった。神様、みんな、ありがとう！余裕があった私は、二河峡のトイレを初めて使った(笑) (くぼ)



“ミッションQほしびる” 班ごとに任務遂行!



今年の合言葉「おもいっきり楽しむぞお～」を描いたようなシーンにあちこちで出会った。調理テーブルでは「どんな大きさかね？」「溶けるから大きめに切ろうや」「そこに手やとったら危ないじゃろ」「洗ってこようか」「これ鍋のどこへ持って行ってや」「水くんでこようや」「おれ、料理うまいけんね」「えー、こんなに切るん…」と前から知り合いだったような会話が。

大鍋3つ、ぐらぐら煮ているところでは、蓋を開けて得意そうに見せてくれる鍋番の人たち。「肉は3等分です」「ねぎは最後よねえ」「ザル借りてきてや」。芋包みのところでは「いーち、にーい、さーん…」「水につかったねえ、じゃあ包もうや」「芋がホイルから見えんようにね、炭になるけんね」。

焚火の辺りでは「この枝でかいかね？」「のこぎりで切るわ」「芋はやさしく入れてね」「芋に枯葉のふとんをかけてあげようね」など、どこに行っても、ちびっこから大人までごちゃ混ぜになって、あーだこーだ言いながら、おいしい芋煮と焼き芋を作るために突き進んでいた。

今回、班のリーダーになったわいわいアカデミースタッフ。皆を集める場面では、自慢の手作り旗を高～くあげて「集まってくださ～い」と大きな声を出し、みんなをまとめてくれた。彼らのポケットには「めがせ★かっこいいリーダー！おしごとブック」が。少しは役に立ったかな？みんなかっこよかったよ！ (上田実穂)



10月にアカデミーで下見に行き、危険場所や配置の確認、レクのお試しをした。マイクの練習も。さて当日、さっちゃんが、マイクで焼き芋をくるむ説明をしたら「うまいねえ。こんな丁寧な説明は初めて受けた。」とお母さん達も感心。さっちゃんはその後も嬉しそうに小さい子の芋くるみの世話をしていた頼もしかった。

美味しい焼き芋にせねば！とたき火に行くと、ベテランさんから「やってみんさい」と長い棒を渡された。初めて知ったが、たき火を炭にして広げ、並べた芋の上から布団をかけるように！？落ち葉をかける。で、炎が出るたび押さえつけ消火すること40分。炭の上に落ち葉をのせときながら火を消すなんて！芋煮を食べるのもそこそこに、お父さん達とスコップで炎のもぐらたたきをやった。大笑いしながらやっているとお母さんが集まって来た。

午後からのレク『こえだでかしつり大会』は班ごとに竿を作り、シートに浮かべたお菓子を釣る。リーダーは頑張ったが自分の説明が伝わらず、ガヤガヤしたままにスタート。大物をねらって吊れない子、ガムテに土が付き粘着不足になる子、1度にチョコパイ2つにせんべいを釣る子、カオス～。進めるのが嫌になったが、ガムテを付け替え粘着力UP、

お菓子をガムテに乗せ竿の先で押さえる技、輪っかを何個も付けるなど遊びが進化しとって、結果オーライ??

当日の班分けは難しいんじゃないかと思ったが、リーダーを中心にみんなが協力してまとまっていた。奇跡的に晴れた青空の下、楽しげに油揚げをちぎる子、風切り走り回って、たきぎ集めをする子、「来年もかまどや火の番をする」と言ったお父さん、そして大活躍だったリーダー、みんな「やった！」と思えていたらいいな。

家に帰りお土産の焼き芋を「私が焼いた！」と言ってしまおう自分が可笑しかった。(屋敷こずえ)



ティーンズ⁺plus

社会人伊佐、自由にやっています!

ブレない自分の軸をつくる

皆さん!お久しぶりです!

実は私、4月より社会人になっていました!

長かった学生生活を終えて、社会人になった現状や、学生の皆さんに社会人になる前に知っておいて欲しいことを生意気ですが伝えさせていただきます。

僕が社会人にはなって6ヶ月がたちました。本当にあっという間の6ヶ月でした。

初めての県外に初めての1人暮らし。何もかもが新鮮です。

仕事の内容は、入社時から希望していた領域に携わる事が出来ました。

分からないことだらけですが、日々学びながら精進しています。

働き方も自由で基本的に在宅勤務や何時出社するか自分で決められるフレックス制度が導入されている職場です。

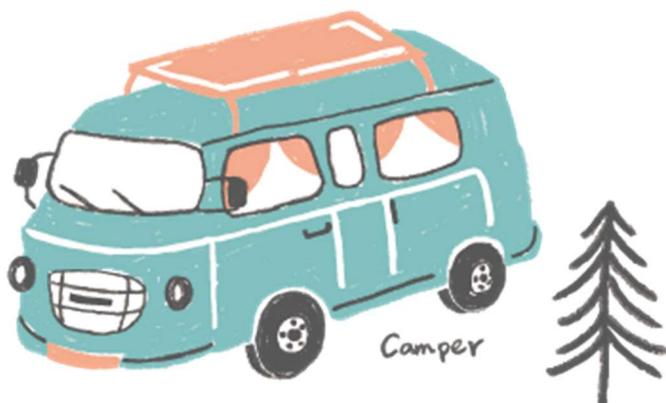
なので、朝少しゆっくり出勤したり、夕方に少し仕事を早めに仕事を上げて少し早めの華金を実現することも出来ます!

(なかなか忙しくてそんな実現はできませんが笑)

この半年間とはとにかく新しいことにチャレンジしました。

新しい趣味のサーフィンを始めたり、人生初めての富士山登山も挑戦しました。

時には海辺で車中泊をして、波に乗ってます(笑)



まだまだ社会人1年生の僕がいうのは生意気ですが、この記事を見てくださっている学生の皆さんにお伝えしたいことが1つあります。

「とにかく色々な事を経験」してください。

やった事のない事に挑戦するだけでなく、学校の勉強や部活などの日々行なっている事も含んでいます。今時間がある間に嫌な事、好きな事だけでなく興味ない事などにも踏み出してみて下さい。

社会人は時間がないからという理由でお伝えしている訳ではありません。

「とにかく色々な事を経験」した経験値や感覚、感性のようなものは自分の気付いていないところでブレない軸になります。そのブレない軸は、どこに行っても何をしてもきっと役に立ったなと気づく時がやってきます。

この記事を読んだ今がきっかけです。些細なことでも踏み出してみませんか?

僕は広島を離れた地で頑張っています。

皆さん、またいつかの伊佐の近況報告でお会いしましょう!
(伊佐豊)

おめでとう!20周年!

堀口さんよりお祝いメッセージ

設立 20 周年、おめでとうございます。設立の前身となった「呉おや子劇場」の発足まで遡るとおよそ半世紀に及ぶと知り、驚嘆しています。この間、子どもたちが地域の中で安心して豊かに育っていける社会づくりに様々な事業を通して一途に取り組んで来られたのは並大抵のことではありません。僭越ながら私も 2 年前に「おとな塾」の講師としてお声かけいただき、呉のやぶ文化についてお話しさせていただきました。もちろん 20 年の歴史の中では「点」にも満たない場でしたが、それでも YYY さんの取り組みに自分の活動が交差する接点を持てたことは、私が大切に思う郷土の祭礼文化を YYY さんが大切にされている視点からとらえ直すきっかけを私自身がいただいたような気がしています。そんな化学反応がこの 20 年間、あちらこちらで起



きていたのだとすると、「点」は「点」に留まらず、既に「面」へと広がりを見せているのかもしれない。今後益々のご発展を祈念しています。

(堀口悟史)

空@空☆ガ。の

舞台ウラはもっとゲキ的!?

～身近なものから遠くのものまで、ゲキ(劇)的な情報を毎月お届けシマス!!～

USJ のゾンビナイトに行きたい!

3 年ぐらい前から、秋に言い続けてきたこと。映画バイオハザードが好きなのと、YYY の事業でお化け屋敷を設営した経験から、絶対楽しそうと思ってた! けど子どもたちは断固拒否(笑) 怖いもんね! そしたら今年、ママ友 A ちゃんから行こうや! ってまさかのお誘い。やったー!!

ところが私と A ちゃん、飲み友の中でも 1・2 を争う無計画。互いの予定をつき合わせたら、10 月 29 日土曜、偶然にもハロウィンが一番盛り上がりそうな日に行くことに。なのにパークチケットさえ取らず呑気…。事務所で 20 代女子に「絶対入場できんよ! 何も乗れんよ!」と脅され、慌てて購入(笑)

結果、ちゃんとエクスプレスパス買ったってよかった! ありがとう!!

限定パスは、4 つのアトラクションのうち 3 つがお化け屋敷系。どこから何が出てくるか、光は、音は、とか余すことなく設備を観察しながら歩く私。怖い! おもしろい! 楽しい~! A ちゃんもこの手の好きだったから、2 人で爆笑しながら駆け抜けました。中でもバイオハザードはよかった! ゾンビだらけの警察署をキャストに導かれながら抜けるというストーリーでしたが、後ろからもゾンビが追いかけてきて、めっちゃ怖かった!



パスのおかげで話題のマリオゾーンにも無事入れました! 建物から地面まで全部がマリオの世界観で表現してあってテンションブチ上がり。

無事アトラクションは堪能したけど、他のことは行き当たりばったりだったがために、ご飯を食べ損ね最後まで腹ペコ。それどころか水一本すらなかなか買えず、3 時間ぐらいひいひい言いながらまわったけどそれも思い出よ!

最後はメインストリートに現れたゾンビに近づいてチェーンソーを向けられ動画撮影! これが見たかったんよ! あ〜笑った! まさか大人になってこんなにテーマパーク楽しめると思ってなかった。一緒に行ってくれた A ちゃん、子ども預かってくれた妹、ありがとう!

(まゆまゆ)

秋のかわらでいもにかい



YYY の前身、おや子劇場時代の 1993 年『あきのかわらでいもにかい』という絵本が福音館から出版された。それを読んで「みんなでこれをやりたい!」というのが活動の始まり。最初は絵本の通り「里芋」でやったそう。でも、剥くのも大変だし、なにしろ子どもたちに不評で(笑) 次の年からサツマイモに変更〜。そこから約 30 年、YYY の秋の恒例活動になっている。

よく飽きずに…とも思うが、新しいやりたいこと、たとえば沢登りして上流まであがったり、太いロープでブランコ作ったりアスレチックにしたり。思いがけないこと、最近のコロナもだけど、雨で焚き木が濡れていたり、水道が使えなくなったり、豪雨災害で公園の地面が陥没してた、なんてことが起こったり。毎年違い、新たな発見があるのだ。だから面白くてやめられない。いつでも、何があっても知恵と工夫と、みんなの力で実施してきた。「やりたいことは多少のハードルは超えて実施できる、という実感があること」それが財産。

今年も、新たな「秋のかわらでいもにかい」110 人で楽しみました!(くぼ)



■発行日:2022 年 11 月 25 日(毎月 1 回発行) ■発行責任者:米本美千恵

■発行元:特定非営利活動法人 呉子ども NPO センター YYY 〒737-0051 呉市中央 3 丁目 11-12PANビル3F

■連絡:0823-24-5646 ■WEB:<http://kure-yyy.org>